

宮古市地域公共交通利便増進実施計画(概要版)

- 並行する路線バスの集約と乗継拠点での地域バスとの接続により、運行の効率化と利便性向上を図る。
- 地域主体の自家用有償旅客運送の新規導入と地域間幹線系統との接続により利便性向上を図る。

事業の内容

事業①(田老地区)

- 並行する田老線2路線と小本線を集約し効率化を図る。
- 乗継拠点(道の駅たろう)にて、田老線2路線、田老小本線(新設)、田老地域バスが接続する。

事業②(門馬地区)

- 地域住民が運行主体となり、門馬地区内に自家用有償旅客運送(門馬地域共助型交通)を新規導入する。
- 乗継拠点(黒沢バス停)にて、門馬地域共助型交通と106急行バス(地域間幹線系統)が接続する。

事業の効果

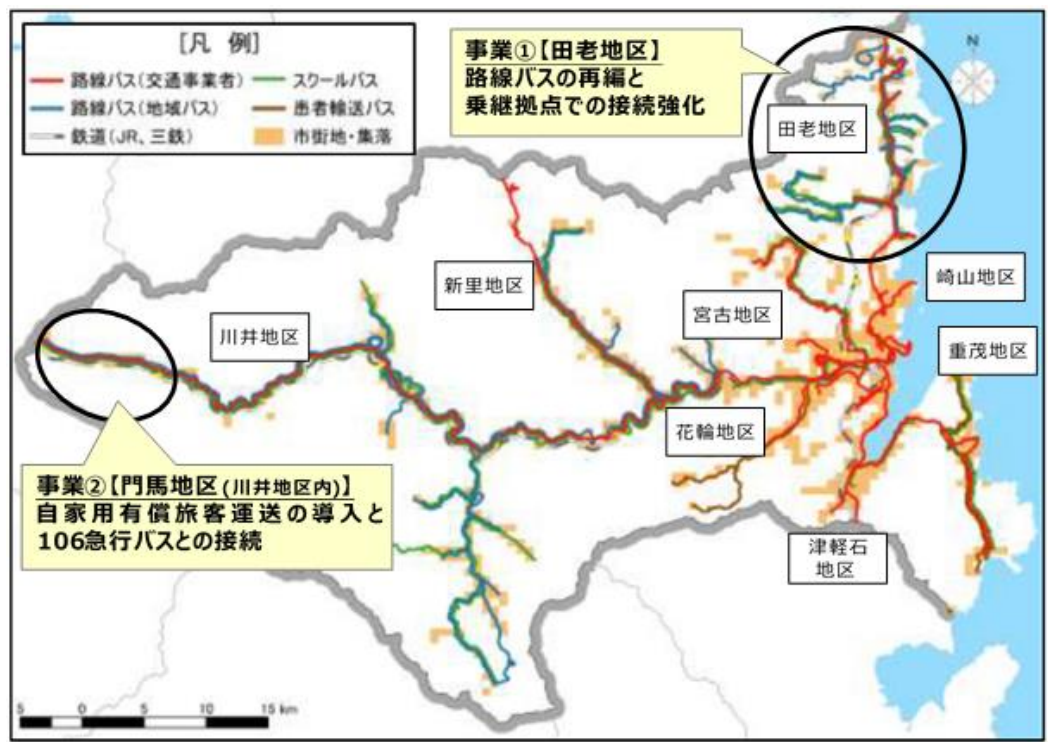
事業①(田老地区)

- 路線集約による運行の効率化を図る。
- 乗継拠点での接続により田老地区内と宮古市中心部の連携を強化し、利便性向上を図る。

事業②(門馬地区)

- 乗継拠点での接続により、門馬地区内と宮古市中心部の連携を強化し、利便性向上を図る。

宮古市内の路線図



- 作成自治体 宮古市
- 事業実施区域 宮古市全域
- 事業実施予定期間 R6年3月~R12年3月

事業①(令和6年3月実施予定)

田老地区における路線バスの再編と乗継拠点での接続強化

- 宮古市及び岩泉町を結ぶ地域間幹線系統について、乗継拠点の設定及び並行路線との集約を実施し、運行の効率化を図ることにより、持続的な運行を実現する。
- 乗継拠点にて地域間幹線系統と田老地域バスの接続を図り、バスネットワークとして利便性向上を図る

事業の内容

➤ 路線バスの再編と乗継拠点での接続強化（田老線と田老小本線のゾーンバス化）

- 道の駅たろうを乗継拠点に位置づけ、田老線2系統と小本線の重複区間（宮古駅前～道の駅たろう）を集約することで運行の効率化を図る。
- 乗継拠点の道の駅たろうでは、新設する田老小本線、新規に乗り入れる田老線2系統、田老地域バス（全5路線）が接続を図ることにより、バスネットワークとしての機能を向上し、田老地区と宮古市中心部及び岩泉町との連携を強化する。

事業の効果

➤ 乗継拠点での接続強化による田老地区と市中心部の移動利便性の向上

- 宮古駅前～道の駅たろう間の運行の効率化を図ることにより、地域間を結ぶ重要路線として持続的な運行を実現する。
- 道の駅たろうでのバス路線間の接続強化により、地域住民の日常利用（通勤、通学、買物、通院）における利便性を向上させる。

再編後路線図



岩泉小本駅前

- 田老小本線は、岩泉町内バスに接続する。

乗継拠点：道の駅たろう

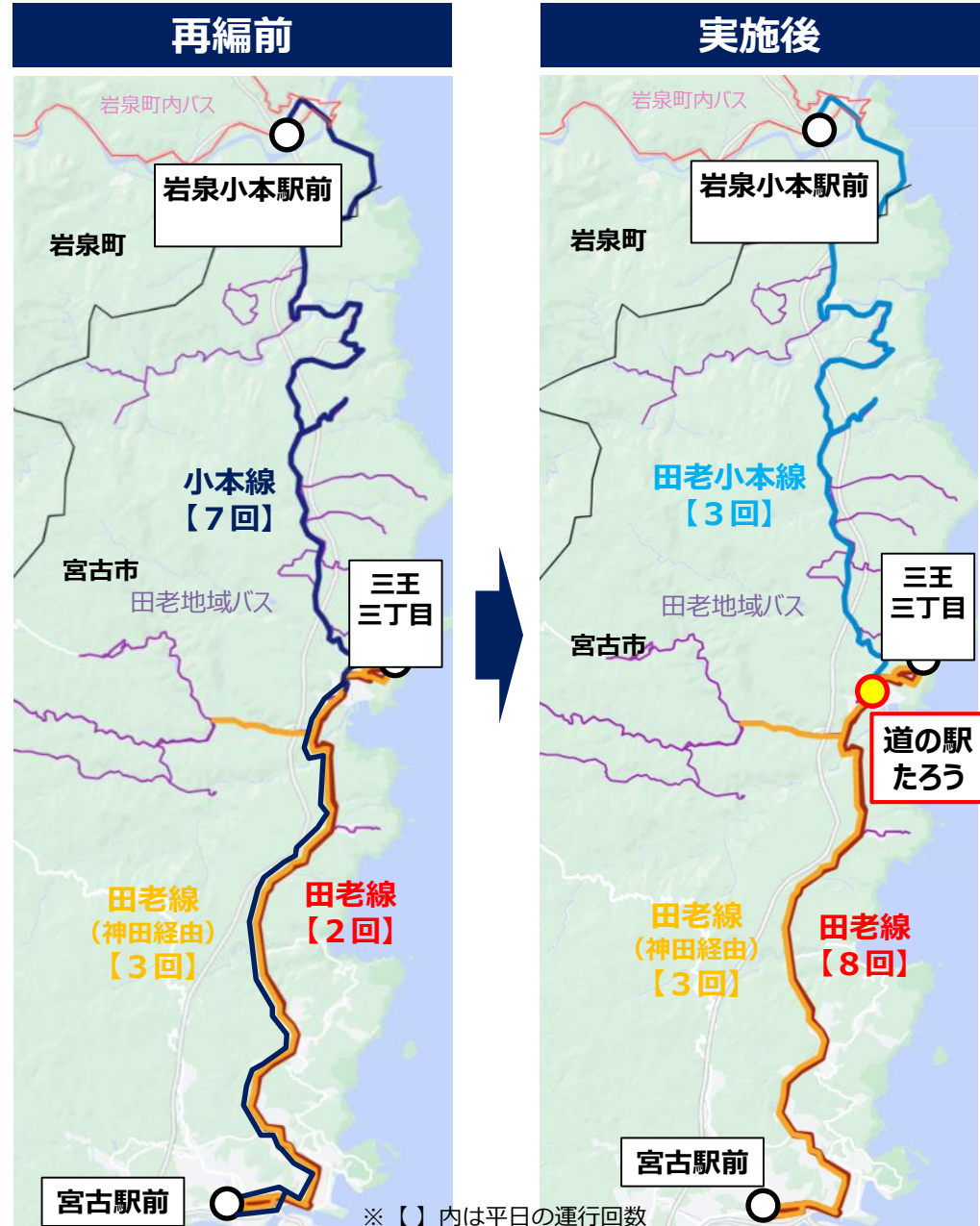
- 田老線2系統は道の駅たろうへ新たに乗り入れる。
- 田老線2系統、田老小本線のダイヤを調整し、田老地域バス（桧内線、青倉末前線、小堀内線、三本木線、畑撰待線）との接続を図る。
- 田老小本線は道の駅たろう以南からの乗継利用がしやすい運賃を協議運賃により設定する。

宮古駅前

- 宮古市内のバス路線、高速バス、JR山田線、三陸鉄道線に接続する。

事業①(令和6年3月実施予定)

田老地区における路線バスの再編と乗継拠点での接続強化



※【】内は平日の運行回数

<現状>

- 小本線は長大な路線だが、利用者の多くは三王三丁目以南の利用であり(19.7人/便*)、三王三丁目以北の利用は少ない(3.9人/便*)。 ※2022年10月の平日の日平均
- 宮古駅前～三王三丁目間は、地域間幹線系統の田老線(ふれあい荘経由)と小本線、非補助路線の田老線が重複して運行している。

<再編の内容>

- 道の駅たろうを乗継拠点に位置づけ、田老線2系統と小本線の重複区間(宮古駅前～道の駅たろう)を集約。
- 田老線2系統は、道の駅たろうに新規乗入し、宮古駅前～道の駅たろう～三王三丁目の利用ニーズに対応。
- 田老小本線を新設。道の駅たろうで田老線と接続し、田老線との一体的な運行として田老地区北部・岩泉町⇄宮古市中心部の連携を強化。協議運賃により乗継しやすい運賃を設定。
- 田老地域バスの全5路線(櫻内線、青倉末前線、小堀内線、三本木線、畑撰待線)は田老線2系統と道の駅たろうで接続し、田老地区内⇄宮古市中心部の連携を強化。

再編前		再編後	
路線	補助	路線	補助
田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統	田老線 (ふれあい荘経由)	地域間 幹線系統
田老線	補助なし	田老線	
小本線	地域間 幹線系統	田老小本線	
運行回数(平日)		運行回数(平日)	
宮古駅前～ 三王三丁目	12回	宮古駅前～ 三王三丁目	11回
三王三丁目～ 岩泉小本駅前	7回	道の駅たろう～ 岩泉小本駅前	3回

※再編前後での変更箇所を赤字で表記

事業②(令和6年4月実施予定)

門馬地区における自家用有償旅客運送の導入と106急行バスとの接続

- 門馬地区における住民主体の無償運行を自家用有償旅客運送に移行（新規導入）する。
- 乗継拠点の黒沢バス停にて、106急行バス（地域間幹線系統）と門馬地区共助型交通と接続し、門馬地区から宮古市中心部への移動に対応する。

事業の内容

➤ 自家用有償旅客運送を導入と地域間幹線系統との接続強化

- 門馬地区における住民主体の無償運行を自家用有償旅客運送に移行（新規導入）する。（サービス名称：門馬地区共助型交通）
- 門馬地区共助型交通は、黒沢バス停に乗り入れ、地域間幹線系統の106急行バスと接続する。

事業の効果

➤ 地域内及び宮古市中心部への利便性の向上

- 乗継拠点の黒沢バス停にて、門馬地区共助型交通と106急行バスの接続により、門馬地区から宮古市中心部への利便性の向上を図る。

